



# 読売俳壇

## 矢島 洛男 選

湖畔まで道は下りや秋早

泉佐野市 布野 寿

【評】今年秋に入っても猛暑が続く。加えて雨が少ないから水不足が深刻な地方が多い。湖の水位も大分下がっている。水際まで砂浜を踏んで、下る道が出来ていた。

コンビニの灯に来て稲子つるびたる

水戸市 加藤木よういち

【評】稲田の中にあるコンビニであらう。夜も煌々と明るい照明に稲子たちが集まって、交尾している。

祭壇の左右に西瓜誦経聞く

野田市 高梨昇一郎

【評】祭壇に供えられた西瓜。それも両端に。わからないお経をきいていても気になってしょうがない。暑くて、あんな立派な西瓜が食べたいもんだと、煩惱が起ころ。

山門は風の入口乱れ萩

北本市 萩原 行博

大雪溪天まで届く灯の蛇行

川崎市 沼田 広美

群虫図群れて見てある美術展

園分寺市 野々村澄夫

残暑つづくこれでもかなほこれでもか

東京都 野上 卓

一休に倣い血を吸わせては蚊を叩く

大阪市 農本 定成

子等居りし頃には買ひし西瓜かな

葛城市 二上 三六

三陸の入り江入り江に残暑あり

出雲市 金山 陽

## 宇多喜代子 選

高原の駅舎一周鬼やんま

高山市 直井 照男

【評】ローカル線の小さい駅舎だらう。そこで出会った鬼ヤンマ。見えなくなっただかと思つたまた出て来る。さも駅舎を一周してきたかのようである。

新涼や大花柄バスタオル

さいたま市 加治美智子

【評】大きな花柄模様のバスタオル。爽やかな秋、何に使つたのだろうか。たとえば、風呂上がり。バスタオルの風合いが心地良い。

恙なく今日は終りぬ水中花

横浜市 石川 幸子

【評】いろいろと多忙の一日であったが、どうやら無事に今日も終わった。そんなホッとした気分小さな水中花が寄り添ってくれているようだ。朝夕に色深めけり秋茄子

朝夕に色深めけり秋茄子

姫路市 難波 佳代

楸廊の句碑立つ宮や蟬時雨

出雲市 石川 寿樹

釣り舟の出払つては鱈日和

川崎市 久保田秀司

一枚の絵はがき届く残暑かな

徳島県 曾我部幸子

産土の神域包み蟬時雨

市川市 鈴木 敬治

十五夜の暦の隙間の付箋かな

水戸市 大野太加し

木に倚れば木の声聞こゆ残暑かな

東大阪市 木田 博幸

## 正木ゆう子 選

おーいと声縞目に伸びて昆布干し

札幌市 田口 和子

【評】縞目に伸びているのは、干された昆布なのだが、声も伸びているような楽しい文脈。長いものは15メートルもあるという昆布の、端から端まで届く「おーい」である。

立ち読みせし本屋無事ある帰省かな

宝塚市 広田 祝世

【評】町の本屋さんが減り、私が立ち読みした故郷の古書店も今は無い。大型書店でも個性的な小さな店でもない。本屋さんよ、永遠に。

吾の血も仄かに葉月ちゃん誕生

鎌倉市 中江 優子

【評】葉月(八月)に生まれた葉月ちゃん。「仄かに」だから、お孫さんがあるいは少し遠い縁かも。仄かな血の繋がりは、素敵な表現。百日紅咲き続くもの頼もしき

良薬のごとき熱き茶夜の秋

東京都 中村 厚郎

流灯の遠きはかへりみるごとし

松山市 高山 洋子

翡翠の歩くところをついで見ず

東京都 望月 清彦

体調を声音に探り合ふ残暑

町田市 枝沢 聖文

祖父母生きのびて我あり震災忌

松本市 石垣 立夫

白黒の番組多き八月来

横浜市 小野寺 洋

土浦市 今泉 準一

## 小澤 實 選

夜業より帰りし父よ火の匂ひ

川越市 益子さとし

【評】会社から夜遅く帰って来た父に近づくと、身体から火の匂いがした。宴席などで遅くなったのではなかったことが、わかる。父の顔を見て、安堵の思いも広がるのである。

孫一同とアナウンスあり揚花火

つくば市 浅田 光昭

【評】祖父あるいは祖母の長寿を祝つての揚花火であることを、アナウンスが告げている。花火を楽しみ、さらに長生きされることでしょう。

椎茸の傘に溜まつてゐるバター

小諸市 藤 雪陽

【評】椎茸のバター焼きである。今まさに焼き上がったところであることが、液体状のバターによって、わかる。いい匂いもしてくる。

夕かなかな西行庵は谷の底

寝屋川市 川上 純一

秋麗やパンを反り出るソーセージ

横浜市 岡 一夏

毎年の写真は同じ原爆展

八街市 山本 淑夫

ポリープは良性でした秋涼し

東大和市 井上 鈴野

志功記念館存続求むねふた師ら

青森市 天童 光宏

秋風が部屋を一回りして出る

藤沢市 桜井 勇良

西瓜割りレジ袋入り西瓜握灸

長野市 中里とも子